

我が国周辺水域資源評価等推進委託事業

資源動向調査（ハモ）

吉岡拓也

資源動向調査では、資源管理指針対象魚種、広域重要魚種、栽培対象魚種について、漁業と資源の現状、資源回復に関する管理施策、種苗放流による効果等の調査を実施する。徳島県はハモを担当し、資源動向調査を実施した。

方法

紀伊水道、太平洋、播磨灘におけるハモの漁獲量について、漁獲集計システムを導入している9漁協のデータをまとめた。主要漁法である延縄と小型底びき網については、9漁協のうち代表2漁協の漁獲量をまとめた。

また、長期的な資源動向を把握するため、徳島県における昭和31年以降の漁獲量を「漁業・養殖業生産統計年報」から調べた。平成19年以降はハモについて「漁業・養殖業生産統計年報」の集計対象から外れたので、代表漁協の漁獲量を引き延ばして徳島県の漁獲量を推定した。漁獲集計システムを導入している9漁協のうち、漁獲物の全量を漁協へ水揚げし、全船がほぼ同時期に同じ漁具を使ってハモを狙う代表1漁協のCPUE (kg/日・隻) から資源動向を把握した。

結果

ハモは紀伊水道、太平洋、播磨灘で漁獲されるが、紀伊水道が主要な漁場である。(図1)。徳島県におけるハモの漁獲量は平成13年に急増した後、横ばい傾向で推移している(図2)。延縄の主漁期CPUEは、平成26年以降92～105kg/日・隻で推移し、平成30年は前年比108%の114kg/日・隻だった(図3)。小型底びき網のC主漁期PUEは、平成26年以降80～97kg/日・隻で推移し、平成30年は前年比127%の124kg/日・隻だった(図4)。

考察

資源状態

延縄と小型底びき網の漁獲量とCPUE(kg/日・隻)を指標に、紀伊水道におけるハモの資源水準及び資源動向を推定した。平成12年以降の漁獲量において、最高値と0の間を3等分し水準を判断すると高位、平成30年主漁期4～9月の

CPUE(kg/日・隻)は延縄、小型底びき網ともに前年を上回ったことから、資源動向は増加と考えられる。

資源管理の方法

ハモ資源を持続的に利用するためには、産卵親魚の保護、経済的な価値が高くない小型魚や大型魚の再放流等の取り組みを推進する必要がある。また、ハモの資源水準や資源動向を的確に把握するためにも、必要となる資料を積み上げることが必要である。

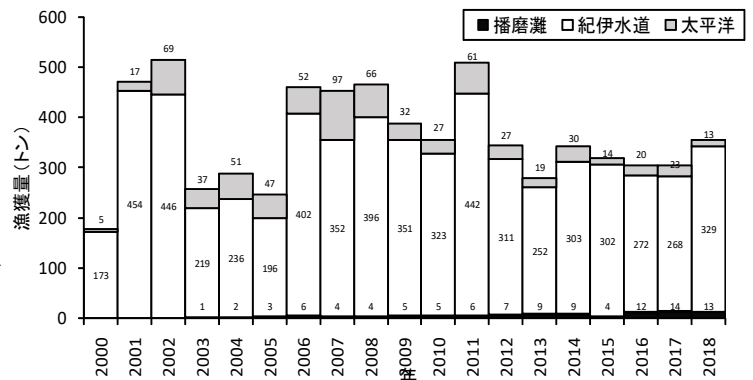


図1. 海域別漁獲量の経年変化

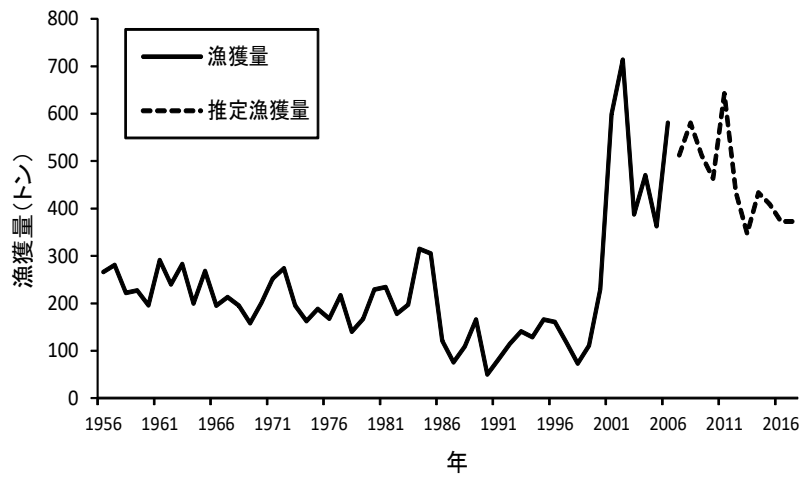


図2. 漁獲量の経年変化
(漁業・養殖業統計年報+推定漁獲量)

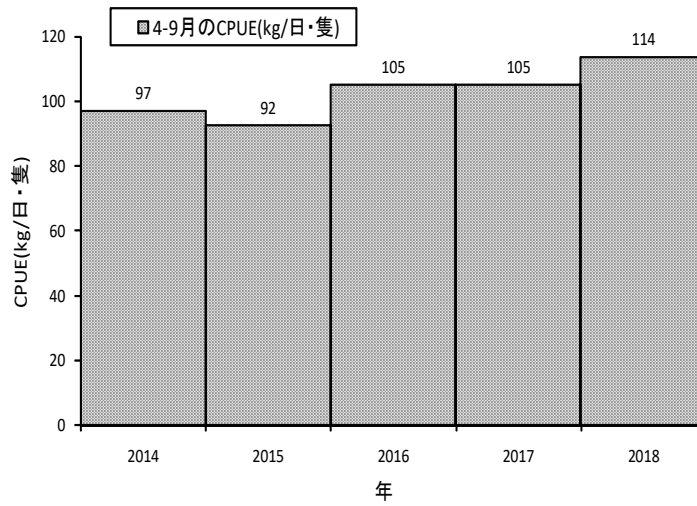


図3. A漁協の延縄による主漁期CPUE (kg/日・隻) の経年変化

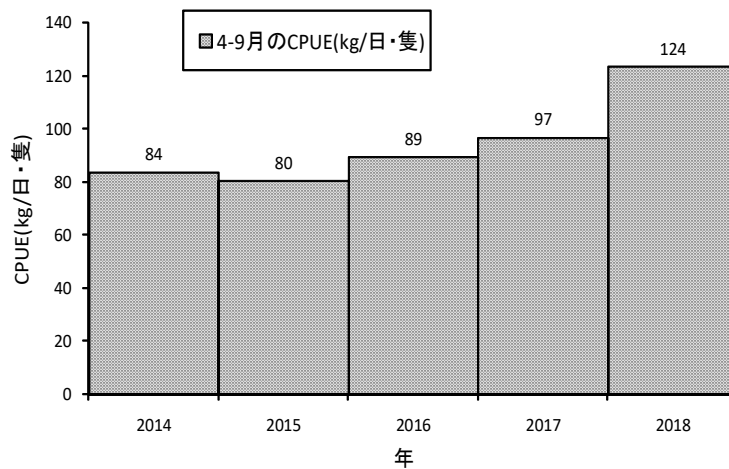


図4. A漁協の小型底びき網による主漁期CPUE (kg/日・隻) の経年変化